

第4回 生息環境専門部会 開催結果概要



◆ 令和2年度のタンチョウ繁殖を総括し、令和3年度以降のタンチョウ繁殖環境の整備・維持管理について議論！

- 開催日時：令和3年1月27日(水) 15:00～16:40
- 開催場所：オンライン開催（Webexを使用）
- 出席者：計18名（うち委員10名）



主な検討内容

●事務局からの報告 ○委員からの指摘事項

(1) タンチョウの飛来・繁殖状況および来年度の対応について

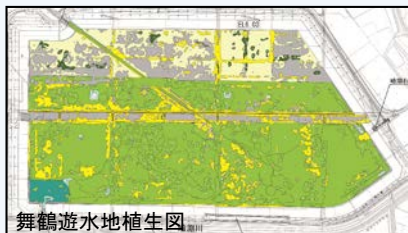
- 来年度も繁殖が期待されることから、想定されるタンチョウの行動と協議会の対応案を検討。



舞鶴遊水地内のタンチョウ親子
(令和2年8月7日撮影)

(2) 舞鶴遊水地の環境調査結果について

- 舞鶴遊水地内ではヨシ群落、ヤナギ低木林が拡大し、開放水面は縮小した。



舞鶴遊水地植生図

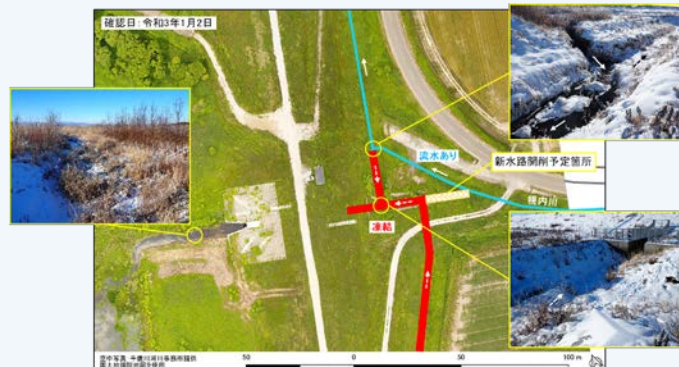


アライグマ

- 今後も植生のモニタリングが必要。
- アライグマの駆除体制の拡充を検討することが求められる。

(3) 舞鶴遊水地内における採食環境について

- 舞鶴遊水地に堤内の流水を引き込む水路を開削予定。



- 舞鶴遊水地内の採食資源量によっては、2つがい繁殖できる可能性がある。
- 採食資源となる生物の生息状況を把握することが求められる。



舞鶴遊水地内の生物

(4) 令和3年度の環境調査予定等について

- pHや電気伝導率を面的に把握することが求められる。
- 環境省が繁殖期ドローン調査および標識調査を検討中。



総括



座長 中村 太士 教授

- 今年はタンチョウが無事繁殖し、この取組が全国的にも知られるようになった。
- 舞鶴遊水地で2つがいの繁殖可能性も示唆された。一方、アライグマの駆除体制の強化も重要である。また、タンチョウの生息情報から、広域の観点の必要性も指摘された。

タンチョウも住めるまちづくり検討協議会

第4回生息環境専門部会 議事概要

〔日 時〕：令和3年1月27日（水） 15:00～16:40

〔場 所〕：オンライン開催（Webex を使用）

〔出席者〕：計18名（うち委員10名）

（1）タンチョウの飛来・繁殖状況および来年度の対応について

- 事務局より、今後の舞鶴遊水地における繁殖時の対応案を提示し、委員にご確認いただいた。
- 舞鶴の家族と思われる個体の確認は日高で継続している。気温にもよるが、例年どおりであれば来月ごろ戻ってくる可能性がある。今年も舞鶴遊水地での繁殖の可能性は高いと考えられる。

（2）舞鶴遊水地の環境調査結果について

- 植生の変化は想定どおりで推移しているが、モニタリングの継続が求められる。
- 昨年の繁殖はヨシを殆ど使わず、ウキヤガラで造巢していた。この個体に限ったことの可能性もあるが、道東圏でも記録がなく、ヨシが少なく、ガマやウキヤガラ等が混生する舞鶴遊水地のような環境でもタンチョウが繁殖可能であることの知見が得られた。
- 舞鶴遊水地の近隣でタンチョウではないがアライグマによる希少種の捕食事例がある。遊水地内でも同様の可能性があるので、アライグマの駆除体制の拡充を検討する必要がある。

（3）舞鶴遊水地内における採食環境について

- 昨年の育雛範囲は限定的であり、営巣地周辺の採食資源は多いと考えられた。現状が維持されれば繁殖は継続されると考えられる。また、舞鶴遊水地内全域の採食資源量によっては、2つがい繁殖できる可能性もある。
- タンチョウの今後の繁殖の可能性を検討するために、採食資源となる生物の生息状況について、季節ごとに複数回、複数地点で調査を行う必要がある。
- 営巣地周辺で越冬もできれば移動による危険も回避できる。非凍結水域を広げると、冬の不在期間の短縮が起き、さらに周辺に補助的採餌場があれば1つがいは舞鶴遊水地に通年留まる可能性がある。

（4）令和3年度の環境調査予定等について

- pH、電気伝導率、溶存酸素量などの水質調査を面的に実施する必要がある。雨主体の水質になれば、pH や電気伝導率が低下していく。そうになるとヤナギ林ではなく湿原とハンノキ林へ遷移していく可能性が出てくる。

○環境省ではドローンによる繁殖状況調査、標識調査の実施を検討している。

【総括】

- 今年はタンチョウが無事繁殖し、この取組が全国的にも知られるようになった。
- 舞鶴遊水地で2つがいの繁殖可能性も示唆された。一方、アライグマの駆除体制の強化も重要である。
- より広域的な視点に立ち、生態系ネットワークのさらなる構築に向けた議論を行うための検討が必要である。

以 上